

# EU Indicators

## 欧州経済指標コメント：4-6月期英国GDP（一次改定値）

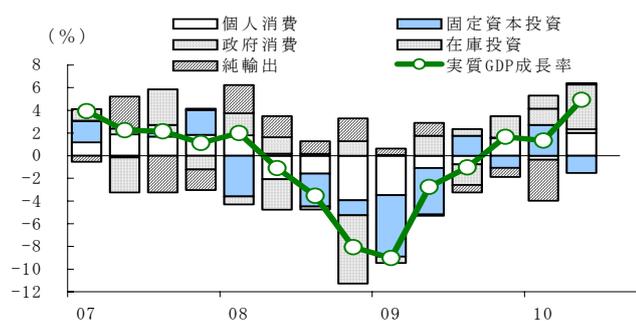
発表日：2010年8月27日（金）

～足元の好調を確認するも、先行きの景気減速は避けられない～

第一生命経済研究所 経済調査部  
主任エコノミスト 田中 理  
03-5221-4527

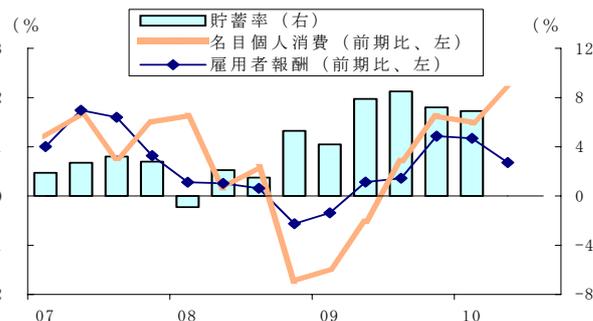
- 4-6月期の英国の実質GDP成長率（一次改定値）は前期比+1.2%、同年率+4.9%と3四半期連続のプラス成長。速報（前期比+1.1%、同年率+4.5%）から僅かに上方修正された。業種別の内訳は、速報値同様に、農業、製造業、建設業、卸売・宿泊・外食、企業向けサービス・金融業、政府が前期比プラスの一方、鉱業、公益、運輸・通信がマイナス。農業と建設業の速報からの上方修正幅が大きい。
- 新たに発表された需要項目別の内訳は、個人消費、政府消費、在庫投資、純輸出がプラスの一方、固定資本投資がマイナス（左図、表）。固定資本投資の内訳は9月28日の確報値を待たねばならないが、民間設備投資が前期（前期比+7.8%、同年率+35.1%）の反動もあり、足を引っ張った公算が大きい。業種別でみた建設業の好調から、住宅投資はプラスとなった模様。
- 7-9月期入り後の景気は、先行きの財政緊縮を見越して家計マインドが慎重化しているほか、住宅市況に軟化の兆しが見られるものの、7月の小売売上が好調を維持し、まずは好調なスタートを切った。08年後半～09年前半にかけての消費抑制で家計のバランスシート調整に一定の進展がみられ、失業率が低下基調にあるなかで雇用者報酬の増加が続いており、消費環境の改善を後押ししている（右図）。
- 4-6月期の成長の多くは在庫投資に支えられたもので、7-9月期の反動は避けられない模様。先行きを展望しても、既に金利水準の低い英国では財政再建を通じた金利低下が民間需要を掘り起こす効果は限られる。そのため、財政再建の本格化に伴い、来年以降の景気に景気に下押し圧力が強まる公算。

■英国実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：英国国家統計局

■英国雇用者報酬と貯蓄率



出所：英国国家統計局

■英国GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目 GDP	実質 GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本 投資	在庫	輸出	輸入		
09/1-3月期	▲ 10.2	▲ 9.0	(▲ 9.6)	▲ 5.3	▲ 2.5	▲ 29.1	(0.1)	(0.6)	▲ 27.6	▲ 27.2
09/4-6月期	▲ 5.4	▲ 2.8	(▲ 3.9)	▲ 1.7	▲ 0.5	▲ 23.8	(1.8)	(1.1)	▲ 6.3	▲ 9.7
09/7-9月期	3.3	▲ 1.0	(▲ 0.4)	▲ 1.2	2.6	12.3	(▲ 1.8)	(▲ 0.7)	2.8	5.1
09/10-12月期	4.6	1.7	(2.5)	2.3	0.4	▲ 6.8	(1.9)	(▲ 0.8)	16.9	18.9
10/1-3月期	8.6	1.3	(4.9)	▲ 0.5	6.2	19.2	(1.2)	(▲ 3.6)	▲ 6.6	6.7
10/4-6月期	7.1	4.9	(4.8)	3.1	1.3	▲ 9.4	(4.0)	(0.1)	4.3	3.5

出所：英国国家統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。